新任校長の紹介

「　勘　ど　こ　ろ　」

入善町立黒東小学校　　校長　井　田　博　隆

学生の時に少々長唄をかじっていた。知ってのように三味線にはギターのように音階が分かるフレットやポジションマークが付いていない。ではどうやって正確な音をポジショニングできるのか。それにはちょっとしたからくりがある。現在の三味線の多くは、「竿」が、３本の音調節のネジのある、天神とよばれる箇所から始まる先の部分と、中間の部分と、胴に近い元の部分の３つに分解でき、それをつないだ時にできる継ぎ目がいわゆるフレットの役目を果たしている。しかしながら、それはあくまでも基準を示す箇所であり、多くの音にはそれを示す印などなく、まさに手探り。三味線のポジショニングを「勘どころ」という所以である。

さて、習いたての時期には手探りだった「勘どころ」も、練習を積み重ね、経験に裏打ちされることで次第に「勘」がピタリとツボにはまってくるようになる。

昔から教育にも「勘どころ」という言葉が用いられたりする。ここぞ教師の出番、ここはぐっとこらえて待ちの姿勢、こんなときはこんな言葉がけが効果的か、などという状況判断は、一朝一夕にできるものではなく、これまでの子供たちとのかかわりの一つ一つから蓄積された豊かな経験に裏付けられたものだと思う。また、先輩教師からのアドバイスも大変大きな力となる。

長唄は曲の大半は連弾き（合奏）が主となる。タテ三味線の奏者を中心として、弾き手一人一人の感性が全体として調和してこそすばらしい演奏となり得るのだ。学校もぜひ、「教育の勘どころ」を備えた教師集団によって子供たちの感性や個性を組織全体で育んでいく、そんな場でありたい。まずは調子笛に合わせて調弦するところからスタート。笛の音は、例えるなら学校の教育目標とでもいえようか。理想の教育の実現に向け、いよいよ今年度の緞帳が上がった。タテ三味線の掛け声とともに、細竿の三味線独特の空気を切るように研ぎ澄まされた音色が冴え渡る。連弾きが奏でる調べは、荘厳で且つ爽やかだ。

「　地域とつながり生きる子供に　」

入善町立上青小学校　　校長　柚　木　富　子

５月３０日は春の「沢スギの日」でした。低中学年は、沢スギという地域の自然の材を生かした学習を、高学年は、１９７７（昭和５２）年から「文化財愛護少年団」として続いている「沢スギ愛護活動」を行いました。地域のボランティアの方々は、昨年度の強風や大雪被害もあり、安全に対する配慮とともに、学年相応の活動になるようにと材料の準備や活動場所の選定などに心を尽くし、万全の態勢で子供たちを迎えてくださいました。子供たちを見つめる眼差しは温かく、生活を楽しむ知恵や技術を伝えたいという思い、地域の財産である沢スギをこれからも一緒に守っていってほしいという思いにあふれていました。子供たちはそれをしっかりと受け止め、有意義な時間を過ごすことができました。

地域の方々にお世話になる活動は、この他にも４、５年生の「田植え体験」、２年生の「町探検」、「入善町さわやか挨拶運動」など多くあります。そんな時、感謝の言葉を伝えると、一様にして「私たちも楽しいんですよ」と、笑顔で話してくださり、子供たちを「地域の宝」と言ってくださいます。

國學院大學教授（前文科省初等中等教育局教育課程課教科調査官）の杉田洋先生は「人は人によって人になる」とおっしゃっています。地域とのつながりの中で「地域を愛し、地域から愛される自分、頼りにされる自分、役立つ自分」を感じ、そんな自分を誇りに思いながら成長し、やがて社会に役立つ自信を得ていくのでしょう。そのために、学校は、これらの学習や体験活動を教育活動にしっかりと位置付け、道徳教育や各種教育との関わりを意識して、事前・事後の指導をすることが大切だと考えます。

ところで「地域の宝」は子供だけでしょうか。子供たちはどう考えるのか、理由とともに聞いてみたいものです。

教育センター事業報告

第４学年社会科現地学習指導者研修会・現地学習

４月２４日（火）に第４学年社会科現地学習指導者研修会を「エコぽ～と」と「入善浄化センター」で開催しました。両職員の方々に詳しく説明を受け、施設内を見学し、来る現地学習に備えることができました。各学校での現地学習も有意義なものになり、子供たちの学習に大いに活用することができました。

入善町地域めぐり研修会 ～黒部川扇状地の自然と文化財めぐり～

５月１５日（火）に黒部川扇状地研究所事務局長 広田登先生を講師に招き、入善町地域めぐり研修会を実施しました。今年度は、小・中学校合わせて１１名の先生方が参加してくださいました。研修会当日は天候にも恵まれ、入善町の貴重な文化財や自然の素晴らしさを堪能することができました。湧水の試飲や深層水を使ってのキュウリの一夜漬けなどの体験は、参加者の皆さんに大変喜ばれました。

「いじめゼロ　不登校ゼロ」への取組 ～入善町小･中学校、高等学校生徒指導協議会～

６月７日（木）に、第１回入善町小・中学校、高等学校生徒指導協議会を開催しました。東部教育事務所指導課　主任生活指導主事　五十里　親良先生を講師にお迎えし、「いじめの現状と早期発見・早期対応」という演題で、ご講演をいただきました。全国や富山県のいじめの現状やいじめ対応の流れについて具体的に紹介していただくとともに、未然防止策についても分かりやすく教えていただきました。日頃からの全教職員での組織対応の大切さや教師自身が生徒理解力を向上させていくことの必要性など、今後の生徒指導の在り方について多くの示唆を得ることができました。

入善町「とやま型学力向上プログラム」研修会

６月２９日（金）うるおい館にて、国士舘大学体育学部 教授 澤井 陽介 先生に「新学習指導要領が求める授業改善」という演題でご講演をいただきました。先生ご自身の教職経験や研究成果の中から、学習指導要領改訂の全体像や授業改善の視点について大変分かりやすく丁寧にご講演いただき、今後の取り組み方について多くの示唆を得ることができました。

特に、新学習指導要領の中で提唱されている「主体的・対話的で深い学び」に向かうために教師はどのようなスタンスで授業を仕組んでいけばよいのか具体的にご示唆いただきました。「子供がなぜだろうと頭を働かせる問いの構成の工夫」「多様性や広がりのある資料内容や資料提示の工夫」「子供が必要性を感じる活動の設定」「受け止める力や反応する力の意図的育成」など子供の学びを軸に授業をデザインし、マネジメントしていくという授業設計の指標をいただきました。また、「そのような授業ができているのか第三者目線で振り返り、日々授業改善を行い、授業の質の向上を図っていくことの大切さ」を改めて考える貴重な機会となりました。

- 「１５分間は子供にプレゼントする」という気持ちで、子供を信用し、ゆとりのある授業設計をしたいと思いました。
- 「何のためにこれをするのか」と考えて授業を進めていきたいと思いました。
- 「授業改善には、自分の中に自分を見つめる師匠をもたなければならない」という言葉が印象に残りました。よく見つめ直し、改善を図りたいと思います。